

2021年3月23日
東日本旅客鉄道株式会社
水戸支社

常磐線全線運転再開から1年×水郡線全線運転再開 常磐線と水郡線で地域の特産品を運びます！

全線運転再開から1年を迎えた常磐線「いわき～品川駅間」において特急ひたち号による荷物輸送を実施します。また、水郡線では3月27日の全線運転再開に合わせて、水戸駅で実施する「水郡線奥久慈マルシェ」に向けて「常陸大子～水戸駅間」で荷物輸送を実施し、奥久慈の魅力ある食材を運びます。

いわき駅からは“常磐もの”と呼ばれる獲れたて鮮魚を、常陸大子駅からは水と緑溢れる沿線で育まれた“奥久慈しゃも”の卵と弁当を各所に運び、彩りを添えます。

（1）常磐線特急列車による列車荷物輸送（いわき～品川駅間）

■特急列車によるいわき駅（福島県内）からの荷物輸送は初めての実施となります。

①実施概要

- 【実施日】2021年3月26日（金）
- 【輸送列車】特急ひたち16号（いわき駅13：23発→品川駅15：51着）
- 【お届け食材】常磐もの（ヒラメ、ホウボウ、メバル等）
※水揚げ状況により魚種が変動する可能性があります。
- 【荷主】福島県漁業協同組合連合会、農林中央金庫 福島支店

②販売概要

- 【実施日】2021年3月26日（金）
- 【販売箇所】品川駅 エキュート品川 「築地竹若」「ぬる爛佐藤 御殿山茶寮」
エキュート品川サウス 「品川 ひおき」
- 【運営者】(株)JR東日本リテールネット

ヒラメ



ホウボウ

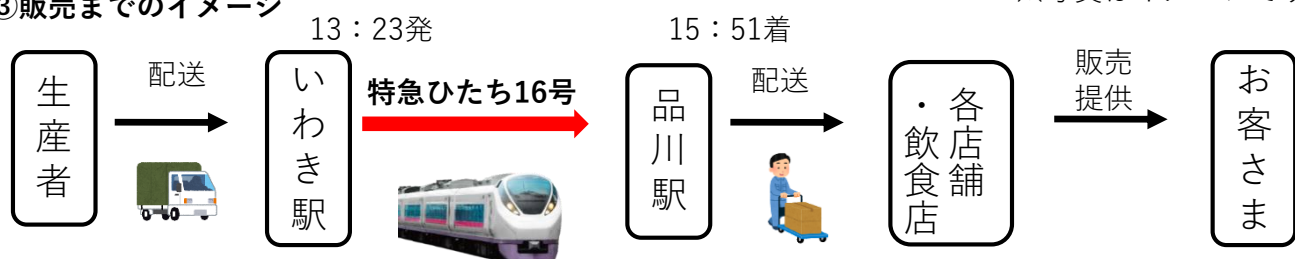


輸送荷姿



③販売までのイメージ

※写真はイメージです。



(2) 水郡線による列車荷物輸送（常陸大子～水戸駅間）

- 水郡線全線運転再開初日に、常陸大子駅から初めての列車荷物輸送を実施します。
- 網棚を有効活用した荷物輸送を実施します。
- 定期便化につなげられるよう、継続性や安全面等について検証します。

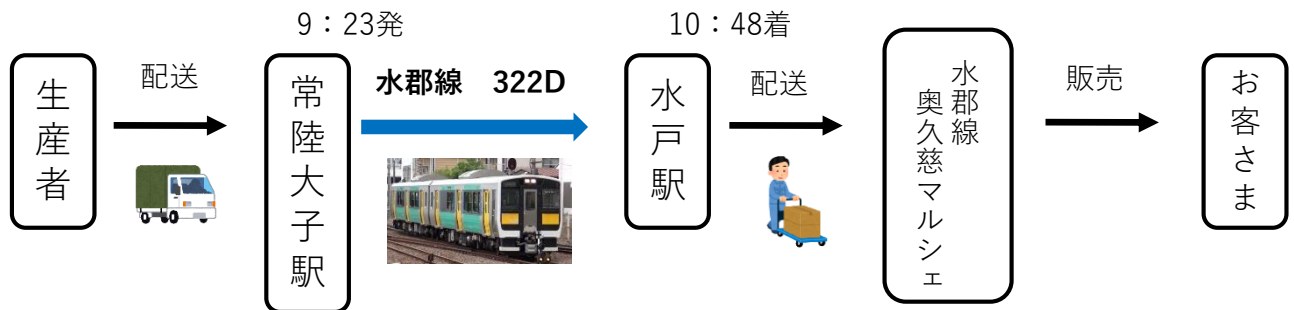
①実施概要

- 【実施日】2021年3月27日（土）～28日（日）
- 【輸送列車】水郡線322D（常陸大子9：23発→水戸駅10：48着）
- 【お届け食材】奥久慈しゃも卵、奥久慈しゃも弁当
- 【荷主】奥久慈しゃも生産組合、玉屋旅館

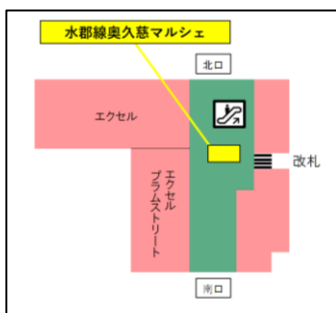
②販売概要

- 【実施日】2021年3月27日（土）～28日（日） 11：00～17：00
- 【販売商品】荷物輸送でお届けする商品のほか、水郡線沿線特産品の販売
- 【販売箇所】水戸駅 改札外イベントスペース
（全線運転再開イベント「水郡線奥久慈マルシェ」と連携）
- 【運営者】(株)JR東日本リテールネット水戸支店

③販売までのイメージ



会場図（水戸駅）



奥久慈しゃも弁当



奥久慈しゃも卵



輸送荷姿



※写真はイメージです。

※箱はロープで固定します。

【参考】 これまでの列車荷物輸送への取り組み

(1) 常磐線特急初トライアル。特急「ときわ」で新鮮な海の幸を輸送

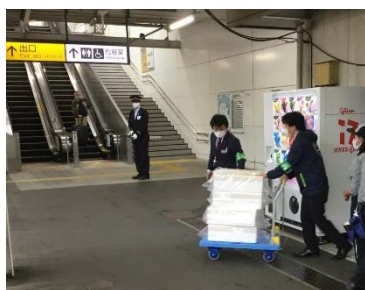
【実施日】2020年10月23日（金）～11月20日（金） 毎週火・金曜日※祝日休止（全8回）

【輸送列車】常磐線特急ときわ76号（勝田駅13：47発→品川駅15：22着）

【お届け食材】茨城県大洗町産しらす、鮮魚 ※品川駅、五反田駅構内「sakana bacca」にて販売。

■JR水戸支社として初めて取り組んだ列車荷物輸送です。

■物流網の課題であった「獲れたて生しらす」の輸送を、水揚げから約5時間後に都内で販売することを実現し、素材の良さや知名度の向上につなげることが出来ました。



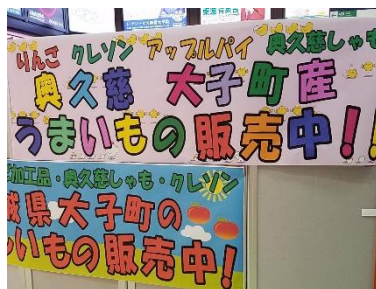
(2) 水郡線初トライアル！奥久慈の特産品を輸送

【実施日】2020年12月18日（金）～19日（土） ※「水郡線奥久慈マルシェ」と連動。（全2回）

【輸送列車】水郡線840D（袋田駅11：26発→水戸駅12：39着）

【お届け食材】奥久慈りんご、奥久慈しゃも卵、奥久慈しゃも弁当、奥久慈クレソン、奥久慈りんご加工品

■山間部におけるサプライチェーン（素材仕入・生産から物流、販売までの流れ）を、当社リソースを活用してサポートする物流体制構築の可能性を検証しました。



(3) 自治体と連携した列車荷物輸送

- 【実施日】2021年3月2日（火）～13日（土） 毎週火・木・土曜日（全6回）
【輸送列車】常磐線特急ときわ76号（勝田駅13：47発→品川駅15：22着）
【お届け食材】茨城県大洗町産しらす、おれんじ玉子、バインベリー、いばらキッス大福、常陸牛牛べん、奥久慈しゃもべん ※品川駅構内商業施設にて販売。

- 茨城県が主催した「茨城のグルメに恋する いばキューン！フェア」と連携して実施しました。
■荷量を増やし、客席活用の可能性について検証しました。



JR水戸支社は、これからも列車荷物輸送を通して持続可能な商流・物流ネットワークの構築を目指していきます。

ネットワーク構築イメージ

